京都「被爆二世・三世の会」会報

京都市中京区壬生仙念町３０-２
ラボール京都５階
京都原水爆被災者懇談会気付
ＴＥＬ075-811-3203
ＦＡＸ075-811-3213
ＨＰ　http://aogiri2-3.jp

Kyoto Association of 2nd & 3rd Generation *Hibakusha*（Atomic Bomb Survivors）

11月４日、「イスラエルのジェノサイドを許すな！」という呼びかけの下、京都市役所前に集った人々。イスラムコミュニティの方たちも参加。（守田敏也さん撮影）

抗議メッセージ　イスラエルはガザ攻撃を中止し、撤退を　２
Protest Message
Israel must immediately cease its unlawful and indiscriminate attacks on Gaza residents and withdraw! We call for an immediate ceasefire.　３
福島取材報告№.２　楢葉町宝鏡寺の伝言館他　米重節男　４
２０２３年日本平和大会 in 鹿児島参加レポート　小林こうき　６
ウトロ平和祈念館を訪問して　石角敏明　７
東京「おりづるの子」講演と交流のつどい　寄せられた感想文の紹介　８
ご案内　２０２３年被爆者をはげますつどい＆交流会　１０
お知らせ　増田正昭個展　被爆者の肖像画　１１
会員から会員へ@みなさんからのお便り紹介　１３
本・ＤＶＤ・映画・番組の紹介と交流　１５
「私は広島の上空から地獄を見た」
「京都労演１２月例会のご案内」
SCRAPBOOK　「ＣＴＢＴ　ロシアが批准撤回」（被団協しんぶん）
「またも飛び出した核の脅威」（東京）
編集後記　１９
２０２３年１２行事カレンダー　２０

抗議メッセージ

イスラエルはガザ住民への無法・無差別攻撃を即時中止し、撤退を！即時停戦を求めます。

イスラエル軍によるパレスチナ自治区ガザへの大規模な空爆と地上侵攻が行われ、ガザ市民の犠牲が拡大しつづけています。パレスチナ自治区保健当局は１１月１７日、ガザでの死者が 12,000 人を超えたと発表しました。うち 5,000 人が子どもだと伝えられています。11 月 18 日の国連総会の非公式会合で、ガザ北部で機能している病院は一つだけとなり、２４のうち１８の病院が閉鎖されたと報告されています。

イスラエルはイスラム組織ハマスによる攻撃への「自衛」と主張しています。しかしそれならば長年にわたるイスラエルによる軍事占領、たびたびおこなわれた軍事攻撃に対するパレスチナ側の反撃も「自衛」であると言えます。

しかし自衛といえども一般市民を対象とした攻撃や人質は許されないことです。さらにイスラエル軍がいま、ガザ地区に対して行っていることは、２２０万人のすべての住民を対象に、水、電気、食料、燃料など生活に必要な資源を遮断し、攻撃対象とする無差別攻撃にほかなりません。病院すらたびたび襲うような軍事攻撃のどこか自衛なのでしょうか？明らかなるジェノサイドであり戦争犯罪です。それは国際人道法をあらゆる面で踏みにじる断じて許されない行為です。

また、イスラエル閣僚からは原爆投下も「一つの選択肢」との発言が報じられましたが、原爆を体験した被爆者として到底許されるものではなく、強く抗議するものです。

10 月２８日、国連総会は交戦当事者に対しただちに、持続的な人道休戦に入るよう求める決議を圧倒的多数の賛成で採択しました。決議は、ハマスの人質釈放も求めています。また１１月１５日には、国連安全保障理事会は緊急会合が開かれ、イスラエルとイスラム組織ハマス双方に戦闘の「緊急かつ人道的な中断」を求める決議を賛成多数で採択しています。（アメリカ、イギリス、ロシアが棄権）

即時停戦は絶対に必要です。しかし国際社会には、そもそもパレスチナ分割によってこの問題を作りだした歴史的責任があり、さらにその後にそれをも無視してイスラエルが軍事占領を拡大し、無法行為を重ねてきたことを放置し、止めることができなかったことも問う必要があります。その点で国連や、日本も含む国際社会もまた当事者であるという自覚を持たなければなりません。このことを踏まえた上で、私たちは、すべての当事者が国連総会決議の休戦案を受け入れることを求め、イスラエルに対してただちにガザへの攻撃の即時中止、撤退と封鎖の解除を行うことを求めます。

また、問題の根底にあるイスラエルによるパレスチナの多くの地域での不当な軍事占領をやめさせ、イスラエル、パレスチナの２つの国家が共存するパレスチナ問題の平和的解決のために行動するよう求めます。

このために平和憲法をいただく日本政府こそ、真の平和の実現のために積極的に行動することを強く訴えます。

２０２３年１１月２０日

京都原水爆被災者懇談会　世話人代表　花垣ルミ

京都「被爆二世・三世の会」　世話人代表　平　信行

Protest Message
November 20, 2023

Israel must immediately cease its unlawful and indiscriminate attacks on Gaza residents and withdraw! We call for an immediate ceasefire.

Rumi Hanagaki, Representative of Kyoto Atomic and Hydrogen Bomb Survivors' Round Table Conference & Nobuyuki Taira, Representative of the Kyoto Nisei/Sansei Association of A-bomb Survivors

The Israeli military's massive airstrikes and ground invasion of Gaza in the Palestinian territories continue to cause increasing civilian casualties in Gaza. On November 17, Palestinian Authority health officials announced that the death toll in Gaza has exceeded 12,000. It is reported that 5,000 of the dead were children. At an informal meeting of the UN General Assembly on November 18, it was reported that only one hospital was functioning in northern Gaza and that 18 of the 24 hospitals had been closed.

Israel claims that it is "self-defense" against attacks by the Islamic organization Hamas. However, if this is the case, then the Palestinian counterattacks against the Israeli military occupation over the years and the frequent military attacks could be also called "self-defense".

However, even in self-defense, attacking civilians and holding them hostage is unacceptable. Furthermore, what the Israeli military is now doing to the Gaza Strip is nothing less than an indiscriminate attack on all 2.2 million residents, cutting off water, electricity, food, fuel, and other resources necessary for their daily lives. What is self-defense about military attacks that frequently hit even hospitals? It is clearly genocide and a war crime. It is an unforgivable act that violates international humanitarian law in every way.

In addition, an Israeli cabinet member was reported to have said that dropping the atomic bomb was "one option." As an A-bomb survivor who experienced the atomic bombing, we strongly protest this statement, as it is unacceptable.

On October 28, the UN General Assembly overwhelmingly adopted a resolution calling on the belligerents to immediately enter into a sustained humanitarian truce. The resolution also calls for the release of the hostages by Hamas. Also on November 15, the UN Security Council held an emergency session and adopted by a majority a resolution calling on both Israel and the Islamic organization Hamas to "urgently and humanely suspend" the fighting. (The U.S., U.K., and Russia abstained.)

An immediate ceasefire is absolutely necessary. However, the international community also needs to question its historical responsibility in creating this problem through the partition of Palestine in the first place, as well as its failure to stop Israel from ignoring the partition and expanding its military occupation and committing a series of lawless acts. In this regard, the United Nations and the international community, including Japan, must be aware that they are also parties to this problem. In light of this, we call on all parties to accept the ceasefire proposal of the UN General Assembly resolution and call on Israel to immediately cease its attacks on Gaza, withdraw and lift the blockade.

We also call for an end to the unjust military occupation of many Palestinian areas by Israel, which is at the root of the problem, and for action to achieve a peaceful solution to the Palestinian problem, in which two states, Israel and Palestine, coexist.

For this purpose, we strongly appeal to the Japanese government, which has the Peace Constitution, to take positive action to realize true peace.

福島取材報告№.2

楢葉町宝鏡寺の伝言館、大熊町の震災復興拠点、「生業訴訟」を取材

米重節男（向日市）

２日目（１０月１６日）は、いわき市から北上して楢葉町の宝鏡寺境内にある「伝言館」の取材、移転新設された大熊町役場がある震災復興拠点の視察、双葉町の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の見学、その周辺から浪江町を見て夜に相馬市で生業訴訟の中島孝団長からお話を聞きました。

宝鏡寺にある伝言館では、京都から月２回来ている安斎育郎さんから説明を受けました。宝鏡寺は室町時代創建の浄土宗の寺です。東電福島第２原発建設で原発の危険性を訴えて運動してきた故早川篤雄氏（第３０世住職）が、原発訴訟で東電から支払われた賠償金全額を注いで伝言館を開設しました。１９７３年に早川住職の要請で、東大医学部助手で放射線防護学者の安斎育郎さんが、原発建設反対派側として公聴会で意見を述べたことから、２人の活動が始まりました。

この伝言館は、他の展示施設と異なり、「原発設置反対運動を続けてきたのに大事故が起きた。その悔恨と教訓を、少なくとも数世紀にわたる後世に伝えたい」が基本姿勢です。ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマの過ちを後世に伝えるべく、写真パネル・運動の歴史・資料など多くの展示があります。境内には、広島原爆の残り火の「非核の火」、「原発悔恨・伝言の碑」があります。その碑文は**「電力企業と国家の傲慢に　立ち向かって４０年、力及ばず。原発は本性を剥き出し　故郷の過去・現在・未来を奪った。　人々に伝えたい。感性を研ぎ澄まし、知恵をふりしぼり、力を結び合わせて、不条理に立ち向かう勇気を！科学と命への限りない愛の力で！　早川篤雄　安斎育郎　二〇二一年三月一一日」**と刻まれています。

早川住職の死去後、後任の住職から伝言館の継続了承もあり、ボランティア中心に運営されています。原発・核兵器などの運動関係の資料も豊富にあり、「復興」で福島原発事故は無かったことにはしない貴重な施設です。カンパ物資の福島で生産した原料を使い、京都の業者が作ったローソクなどの購入、資金面での支援、見学者を増やすことなどわれわれができることもあると感じました。

伝言館　入口には早川篤雄氏逝去の訃報

大熊町の震災復興拠点を見る

大川原地区復興拠点の案内ボード

大熊町大川原地区に作られている震災復興拠点と呼ばれる区域には、町役場・郵便局や商業センター・復興住宅・学校・復興作業労働者住宅などが作られています。この街を見たとき、２０１６年に視察したウクライナのスラブチッチの街を思い出しました。そこはチェルノブイリ原発事故の避難住民と、復興の労働者のために建設された新たな街でした。福島原発事故の直後に、日本からの視察団が行っており、福島復興の手本のように言われていました。その具体化の一つがが、

この大熊町復興拠点のようです。この地区はたまたま放射線量が低いので選ばれたとのこと。事実、この区域から海側に１㎞位の常磐道より海側の地域は、持参した測定器の放射線量が一気に上がりました。常磐道から東側は、機関困難区域で、住宅の取り壊し工事が進行中です。立入禁止のガードがあちこちに建てられています。

大熊町の登録人口は１万人、いま町内居住１０９４人（内帰還者２３６人）の実態が全てを語っています。「復興」はごく一部でしかありません。

復興住宅には高齢者が多いそうで、人影もまばらでした。学校は保育所から小学校・中学校を一体にした「学び舎ゆめの森」が、今年８月２５日に開校しました。児童生徒数は３１人です。

復興作業労働者住宅は、以前はプレハブ建屋が多かったのですが、今それらは目にしませんでした。廃炉作業が見据えて、働く人も地域に腰を落ち着けて、普通の生活をしてもらうようにと建てられています。駐車してある車も、地元ナンバー車は少なく、他県視ナンバー車が多く止めてありました。

他府県ナンバー車が並ぶ復興労働者住宅街

この住宅住民用に、共同食堂の「大熊食堂」があります。昼間は一般の人も利用できるとのことで、われわれもここで昼食としました。復興拠点で働いている人やバスで来た視察団一行の人達も、食事していました。

生業訴訟の中島孝団長から聞く

生業訴訟は「生業を返せ　地域を返せ！訴訟」という訴訟で、相馬市で中島ストアーを経営する中島孝さんが団長になって、原発事故直後から取り組んでいます。原告団は５３００人で、全国に広がっていいます。２０１４年の取材では、福島地裁での口頭弁論を傍聴しました。茨城県から沖縄に子どもと避難した若いママが、「私は原発事故までは、原発や社会的な関心が無く、そのような活動をしている人を『変な人』として見ているような人でした。」と発言していたのが印象に残っています。

第一次訴訟団は最高裁の判決が出て終わっています。この訴訟は次のことを求めました。①放射線量が０．０４μSvに戻るまで、一人につき月５万円一律の慰謝料を求める。②精神的被害は、どこでも誰でもある。

最高裁判決は、①については、福島県外と会津地域は事故の影響外としたため慰謝料がもらえる人とゼロの人がでました。②については、原発事故による精神的被害を認めました。この判決が出て東電は、訴訟外の全県民に８万円を追加補償で支給しました。これは訴訟団の波及効果で大きな成果です。

訴訟団では一緒に闘った原告の中で、補償金を受けた人、ゼロの人があることについて悩んだところだとのこと。しかし差があって良いのか、全額拠出するとの声も少なからずあり、もらった人からは拠出してもらい、判決でゼロや１審２審よりも減額の人も含めて一律１６万円を再配分したそうです。一度自分の口座に振込まれた金を拠出するのは、なかなかできることではありません。私の経験でも銀行が間違って振込まれたものでも、自分のだと返そうとしない人がありましたが、この措置を実行した訴訟団の団結力の素晴らしさを感じました。

中島孝団長から話を聞く取材団

なお、中島孝さんは１１月１２日投票の相馬市市議会議員に立候補し、トップ当選されています。取材時には、立候補は発表されていませんでした

が、立候補要請を受けたが、選挙の売名行為に裁判を使ったと思われるのではないかとずいぶん悩んだそうです。原告団の人々からの推す声や了解もあって立候補されたようです。

私は２０１１年９月に初めて現地支援で南相馬市に入りました。仮設住宅への支援物資配布活動などに参加したときに、相馬市現地での支援拠点センターの役目をしていたのが、中島ストアーと中島孝さんでした。

（次回中間貯蔵施設取材につづく）

2023年日本平和大会 in 鹿児島参加レポート

小林こうき（宇治市）

「２０２３年日本平和大会 in 鹿児島」参加の声かけをいただきありがとうございました。平和大会の開催は知っていましたが、初参加でした。

事前の資料配布、事前学習会の開催や現地での京都参加者の交流会など事務局のみなさんには大変お世話になりました。

軍事費の増大や軍事基地の拡大強化、日米韓の軍事同盟強化が進められているが、マスコミも北朝鮮ミサイル発射、中国の尖閣や台湾をめぐる緊張を煽る報道はするが、具体的に進行する自衛隊基地強化や米韓との軍事演習の強化などは伝えられていないように感じていた。

今回の鹿児島市で開催された平和大会開会集会で九州各県・沖縄・南西諸島で進められている軍事基地拡大強化の実態と反対の運動報告に接し、受け身ではなく知るための能動的行動の必要をあらためて痛感させられた。

分散会は、初日の「学びの交流のつどい」は、「韓国代表との交流」。二日目の分科会は「歴史認識問題、次世代にどう戦争を伝えていくか」に参加してきました。

初日は、韓国・釜山「平和と統一を拓く人々（ＳＰＡＲＫ）事務局長から、韓・米同盟の強化進行している状況、釜山港の原子力空母・原潜の入港、米軍専用の物資陸揚げ用の専用ふ頭の存在など、有事での最初の攻撃対象となる危険性が報告された。韓国と日本で非核平和運動の連携交流のよびかけが。

二日目は、日本と朝鮮半島との戦前戦後の歴史を学ぶこと、特に日本の加害の歴史を意識的に学ぶことが、市民交流でも必要ではないかと感じており、「歴史認識・・・」分科会に参加させてもらい、

私は、今住んでいる宇治市伊勢田に、昨年春オープンした「ウトロ平和祈念館」について、「政治レベルや日韓米の軍事演習強化など軍事同盟が強化されているが、韓流ブーム、Ｋ－ポップや観光での市民レベルの交流が活発であるが、歴史を学ぶことでより理解・信頼を高めた交流の場になっているな」と、ボランティア参加して感じていることを発言させてもらいました。

多くのことを学ばせてもらう機会になったことに無感謝します。

「ウトロ平和祈念館」を訪問して

石角敏明（長岡京市）

今年というか、８月以降、宇治伊勢田に在る、今年４月で開館１周年を向かえた「ウトロ平和祈念館」を訪問する機会に恵まれました。「ウトロ地区」とは、あるいは「ウトロ平和祈念館」に収蔵される予定であった「立て看板」が放火された「ウトロ放火事件」等については、インターネットで検索し、ぜひ事実を知ってほしいと思います。

私は「放火する人間は絶対に許せない」「果たして普通の人が見学してわかるのかな」という思いを持って訪問しましたが、「金副館長」の話をお聞きして、自分の考えの狭さを反省しました、例えば、放火犯人についてウトロの人たちは「犯人を憎む」のではなく「だから歴史を知らせることが必要だ」と建設を積極的に推し進められたといいます。開館当初は、年間２０００人の訪問者を見込まれていたそうですが、オープン後２万人以上が来館されたそうです。それも５０代以下の人が半数を超えているそうです。特に中高生が、訪問し学習することで、ウトロに対する見方が大きく変わるそうですが、「大人が子供たちに『人権とは何か』『差別とは何か』を教えることが大事ではないか」、という副館長の指摘。「在日コリアンの問題」ではない「差別とは、人権とは」を考え、教えられる祈念館です。そして祈念館の屋上からは、隣接する自衛隊基地が見下ろせる、「我々は監視をしているぞ」という強い意志表示の現れでしょうか。皆さん、ぜひ一度見学し、副館長さんのお話をお聞き下さい。
日本人が知るべき歴史がここには有ります。

10 月 22 日　東京・「おりづるの子」講演と交流のつどい
寄せられた感想文の紹介

１０月２２日(日)、東京の被爆二世の会である「おりづるの子」から招かれて、京都「被爆二世・三世の会」世話人代表の平が講演をしてきました。テーマは、「京都『被爆二世・三世の会』１０年の経験から～今とこれから」でした。参加者は２２人でした。

当日参加されたみなさんの感想文を寄せていただきましたので以下に紹介します。

○１０年間の取り組み、着実に結成の思いを実現されてきたこと、敬意を表します。遠方よりありがとうございました。

○母が亡くなった年齢より２０年ほど生きて、母が患っていた病気をそのまま受け継いでいることに気づきます。母は「薬で生かされているのだから、決して飲み忘れたらダメだよ。死ぬよ！」と言っていたのに、旅行に出かけた時、忘れて出かけたらしく、脳血管障害で死亡しました。私自身も、脳血管にこぶが見つかり、日々心配ですが、二世の会に出席して継承活動を頑張っていこうという思いを強くしました。

○私は子どもの頃から歯が弱く、歯医者さんが削りながら「弱い歯だね…」と言っていました。子どもを出産するまで入院したこともなく、健康だと思っていました。弟は子どもの頃からぜんそくがでます。弟も歯が弱いです。

私は出産の時に子宮頸がんがわかりました。貧血で自転車で倒れて上の歯がほとんど割れてしまいました。

広島にいる時からバレエを習い、「ノーモア広島」でロシア、東ドイツで回ってきました。

母はいつも江田島でも体験を話してくれますが、あまり話したくないようです。伝えていけることは伝えていきたい。ずーっと平和を祈っています。ありがとうございました。

○日本全国に次々と「被爆二世・三世の会」が発足していることを知り、心強く思いました。

○まず、おりづるの子が結成から日が浅いことを知りました。かなり昔からあると思っていました。また医療費補助も他の地域ではまだないところが多いことも初めて知りました。

亡き母が「忘れたい」といつも言っていたので、私もあえて知らないことにしていたのは事実です。でももっとたくさん話を聞けばよかったなと思っています。これから少しずついろんなイベントに参加していきたいと思います、世界中が本当に平和な世界になってほしいと祈っています。

耳の聞こえない人の被爆体験を読み、聞こえない人の生活がわかりました。原爆で苦しんだというより、いじめられた苦しみの方が大きいということを。

微力ながら、私でもできることがあれば、協力したいと思っています。

※思い出しました。たしか私が小学４年生の時、父と一緒に長崎原爆資料館に行き、写真を見たら恐ろしくて泣いた記憶があります。死体の写真もありましました。

しかし５年前、オリックスの人達を連れていったら、こうした写真がなくなり、普通の写真ばかりで、恐ろしいという感じはなかった。個人情報や、残酷な場面などは禁止されているのかわかりませんが、

残念でした。事実の写真をありのままに展示し、見学の人達みんなに「おそろしい」と伝えられたらいいのにと思っていました。事実の世界から目をそらさないでほしい。死体の写真も展示したらいいと思います。

〇被爆体験伝承の活動を始めたいと思って参加しました。具体的ないろいろな活動について、多くのことを学ぶことができました。自分のできることを考えたいと思います。

〇京都「被爆二世・三世の会」でなさったアンケートを興味深く拝見しました。アンケートのいくつかの回答が、私の母や叔母、従兄弟たちに見られた症状であったので驚きました。
　これまで被爆の影響と考えていませんでしたので！
　今後も、原発反対、核廃絶の活動を主に、微力でも「二世の会、おりづるの子」等の活動（継承、健康問題）に関わっていきたいと思いました。

〇被爆体験の継承をしていかなければという危機感を持ちまして、おりづるの子の会に入会させていただいておりますが、自分の子どもたち（三世）も、最近初めて話しましたところ、同じ意見だということで、話してみるものだと思いました。

〇次回もぜひ参加したいです。本日はありがとうございました。

〇全国の「被爆二世・三世」の活動の一部でも紹介され、参考になりました。
　それぞれの立場、目的から活動の連携は難しそうです。

〇平信行さんから具体的な活動の様子を聞かせていただき、たいへん参考になりました。今後も連携していきましょう。

〇二世の方が各地でこつこつと手をつなぎ、自分たちの体験を共有化していることがわかった。

　原爆投下の影響がどんなに長いものか認識した。
　東京にも原爆資料館を、と思った。

〇報道機関の記者です。被爆者団体の組織維持の課題に関心があり拝聴いたしました。幅広く、二世三世活動の現状を知ることができ、感謝しております。参加の動機付けで、健康問題と継承活動の二手に大きく分かれるという視点は特に印象的でした。ありがとうございました。

「核禁署名」第3回共同提出のつどい

　１１月７日（火）、「日本政府に核兵器禁止条約の批准を求める署名」の３回目となる共同提出のつどいが、衆議院第一議員会館で行われた。前回以降に集められた署名１１３，３８３筆の現物が直接外務省審議官に手渡された。今回までの累計数は１，４１７，３９９筆。署名運動の共同よびかけ人、国会議員、各界からあいさつを兼ねた厳しい意見が訴えられた。また、１１月２７日から始まる第２回締約国会議に、日本政府が今度こそ、オブザーバーであっても参加するよう、つどいの参加者全員が強く迫った。この声を無視することなどできないような世論も作っていかなければならない。

ご案内 2023年
被爆者をはげますつどい＆ 交流会

■日時：12月23日(土)午後1時30分～3時30分

■会場：ラボール京都(労働者総合会館)2 階ホール

■参加費：無料

今年５９回目となる、京都にお住いの被爆者のみなさんをはげまし、みなさんとの交流を深める“つどい”を催します。

広島・長崎の被爆者のみなさんの頑張りによって５年前、核兵器禁止条約は誕生しました。その力でウクライナ、ガザなどの紛争も乗り越えていきたいと思います。一人でも多く、一日でも長く被爆者のみなさんがお元気でお過ごしになられるよう願って交流をします。

どなたでも参加できます。この機会に被爆者のみなさんと是非交流を深め、楽しいひと時をお過ごしください。皆様のご参加をお待ちしています。

■オンライン(ZOOM)でも視聴参加できます。

２０２３年被爆者をはげますつどい実行委員会
実行委員長　渡邊　賢治
連絡先：〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町 30-2　ラボール京都５階
京都原水協気付
☎０７５―８１１－３２０３　Fax075―８１１－３２１３

■参加のお申し込みはこちらの申込用紙をお送りください。

【おところ(行政区だけで結構です)】

【おなまえ】

■オンライン(ZOOM)でのお申し込みはこちらからお願いします。

被爆者をはげますつどい 2023
ZOOM 申し込みフォーム QR コード

https://forms.gle/VJZh3ySQBXvjaCX99

増田正昭 個展　被爆者の肖像画

語らなかった両親を描く

2024年2月13日(火)～18日(日) 11:00～19:00（最終日16:00まで）　**gallery G**

被爆者らの肖像画を描く京都市在住の画家・増田正昭による個展が、初めて広島で開催されます。被爆二世の増田にとって広島は生まれ育った場所であり、両親が原爆に遭った場所でもあります。ただ、父と母は被爆体験を語らずに亡くなりました。今回、その姿を描くことで自身のルーツを見つめ直そうと、これまでは描くのを避けてきた両親の肖像画を完成させました。「里帰り」の思いを込めて、広島で個展を開催します。
これまでに対話を重ねてきた被爆者や、ともに活動を続ける被爆二世の肖像画も多数展示します。また、異国の地で原爆の犠牲となったサイド・オマールさんら南方特別留学生についても、資料を読み込んで在りし日の姿を描きました。「被爆者の肖像画」と対面して平和への願いを感じるとともに、絵画による体験伝承の試みについても考える機会となれば幸いです。

増田正昭 個展

被爆者の肖像画 ― 語らなかった両親を描く

イベント情報

会期中、3回のギャラリートークを予定しております。肖像画に込めた思いや制作にまつわるエピソードに関するお話を増田正昭さんにうかがいます。鑑賞と併せてぜひご参加ください。全て予約・参加費とも不要。

語らなかった両親を描く～被爆二世の画家として見つめたルーツ～

2月13日（火）13:30～14:30

増田さんの両親は、ともに広島で原爆の被害にあった被爆者です。しかし、二人ともその体験を語らずに亡くなりました。被爆者の肖像画を多数描いてきた増田さんですが、今回初めて両親を描くことに決めました。自分のルーツを見つめ直すにあたり、広島で両親が被爆した場所を歩き、調査を行いました。なぜ今、両親の肖像画に取り組もうと思ったのか。そしてその過程で感じたこととは。画家として、被爆二世としての思いを、増田さんにうかがいます。

聞き手：小山美砂（ジャーナリスト・元毎日新聞記者）

被爆南方特別留学生を描いて～あの日、同じ空を見つめた女学生の物語と共に～

2月15日（木）13:30～14:30 / 18:30～19:30

2022年に被爆南方特別留学生サイド・オマールさんの肖像画を描いた増田さん。2023年はオマールさんに縁ある二人の肖像画制作に挑みました。キャンバスに描いたのは、オマールさんと同じヒロシマを見た南方特別留学生ニック・ユソフさんと、オマールさんと共にヒロシマの夜空を見つめた栗原明子さん。ギャラリートークでは、3人の肖像画を前に増田さんから完成までのエピソードをうかがい、それぞれの物語を見つめます。

聞き手：榊原恵美子（Storytelling for Tomorrow）

絵画と文学が拓く 被爆体験伝承の可能性～肖像画に描いた被爆者と共に～

2月17日（土）14:00～15:30

肖像画を制作する際、増田さんは被爆体験や平和への思いを聞き取りながらデッサンを仕上げていきます。この日は、制作に協力してくれた広島在住の被爆者・松本滋恵さんをお招きし、完成した肖像画を囲みながらお話をうかがいます。松本さんは、77歳で原爆詩人・栗原貞子について研究し博士号を取得した方でもあります。その内容は一冊の本として2023年に出版されました。絵画と文学、それぞれの方法で原爆の記憶を受け継ぐ二人と、体験伝承の可能性についても考えます。

ゲスト：松本滋恵さん（被爆者・『行動する詩人　栗原貞子』著者）

gallery G

〒730-0012 広島市中区上八丁堀4-1 公開空地内
https://gallery-g.jp/
Tel: 082-211-3260　Fax: 082-211-3261

広電白島線「縮景園前」電停下車すぐ。
広島で一番高いアーバンビューグランドタワーの敷地内北側にあるガラス張りの建物です。
ギャラリーのまわりには池があるので足下にお気をつけて。

会員から会員へ　✿　みなさんからのお便り紹介

他地域の２世・３世の方からいただいたお便りも紹介いたします。

■石田信己さん　６回忌

平　信行（南区）

１０月２６日、京都「被爆二世・三世の会」のメンバー９人で、２０１７年１０月２６日に他界した石田信己さんのお墓参りをし、在りし日の彼を偲んできました。もう６年にもなります。「誰か般若信教を唱えられないか・・・」と言っている内に、「彼には資本論の一節を読み上げてあげる方が似合っている」などと、石田さんの懐かしい思い出を語り合うことになりました。

■京都橘大学と同志社高校で語り部

三山正弘（伏見区）

１１月１２日、１４日と続けて、京都橘大学学園祭『戦争と平和を考える』と、同志社高校の『平和を考える』授業へ参加し、ヒバクシャ語り部として体験談を話してきました。

７８年も前の出来事で生徒さんたちにはピンとこない感じでしたが、現実にあった話を進めるうちに真剣な眼差しで聞いてくれ、自分事のように考えている反応を感じました。戦争が如何に悪で無駄で無用なこと・・・と思うことは同じです。特に莫大な被害を与える・核弾頭の所在は百害あって一利なし！

被害者が高齢化のため年々少なくなっていく現状。若い方々が引き継いでくれることを大変楽しみにしています。

■骨折事故で療養中です！

鳥羽洋子（茨木市）

皆さん、長い間ご無沙汰し、例会にも出席できず、申し訳ございません。実は、私、リニューアルした平和ミュージアムでガイドをした帰りに阪急茨木市駅の階段で転倒し、右膝のお皿のところを骨折してしまいました。滋賀に住む娘がすぐ駆けつけてくれたので、母の介護の引き継ぎをし、安心して入院することができました。初めての全身麻酔での手術でしたが、患者の気持がよくわかり良い体験になりました。また、退院後もしばらくは母の介護と私の「監督」のため滞在してくれている娘の有り難さも身に沁みています。

１０月末には母の９８歳のお祝いを兼ねて湖北に小旅行する予定でしたが、直前でキャンセル！残念でした。でも、その母が今年も元気なのが何よりも嬉しく思います。

半年後に骨を繋いでいるワイヤーを外す手術をまたしなければならないのが憂鬱ですが仕方ありませんね。二世・三世の会には例会にもＺＯＯＭにもなかなか参加出来ず申し訳ございませんが、しばらくはこの状態ですので失礼させて頂きます。ＺＯＯＭ参加できる時は参加させて頂きたいと思っております。

■京都府立洛東高校での学習講演

平　信行（南区）

１１月１７日、京都府立洛東高校に招かれて、「総合的な探求の時間」と言う授業枠で講演をしてきました。１年生全員２４０人が対象です。講演テーマは「核兵器のない世界に向けて」、講演時間は４０分。ウクライナ、ガザのことを導入部に、広島・長崎の被爆の実相、世界の核兵器の現状、ＮＰＴ条約、核兵器禁止条約、「核抑止論」の誤りについて、話し、最後に、国連憲章と核兵器禁止条約に基づいた外交と話し合いこそ真の平和への道、と訴えて締めくくりました。生徒さんたちの熱心な聴く姿勢に心地よい緊張を感じながらの４０分間でした。

時間の関係で直接の感想は聞けていないのですが、後日送っていただく感想文を楽しみにしています。

■思い出の地、洛東高校

谷口公洋（城陽市）

平さん、洛東高校でのお話、お疲れ様でした。

私は東京の大学卒業後、渋谷税務署に勤務し、その後に高校教諭に転職しました。最初に赴任したのが洛東高校でした。緑豊かな自然に恵まれた学校で、野球部の監督をしたり、２０代の教員生活を送らせてもらいました。同時に立命館の夜学にも通い、思う存分に働き学ばせてもらった学校でした。多くの先輩に教えを受け、社会科で平和学習を始めたのも、洛東高校でした。当時の元教え子達とは今でも交流が続いています。素晴らしいレジュメと資料で、生徒達も大いに学んだことと思います。本当にお疲れ様でした。

間もなく師走を迎えます。先日の城陽市の「ふれあい祭り（福祉祭り）」の会場の横には大きなツリーが飾ってありました。一方で戦乱の絶えない世の中に嫌気がさします。世界がますます繋がっていく中で、何としても平和の実現のために力を尽くしたいものです。

京都府立洛東高校

■２月の増田さんの個展とギャラリートークに向けて広島訪問

榊原恵美子（尼崎市）

来年２月の広島での増田正昭さんの個展のギャラリートークに向けて、１１月２５日、広島取材に行ってまいりました。ご一緒したのはギャラリートークでお話をうかがう被爆二世画家の増田正昭さんと昨年オマールさんの肖像画作成を増田さんに依頼された早川幸生先生。広島で迎えてくださったのは数年前にニック・ユソフさんの絵本を出版された青木圭子さんと増田さんが肖像画に描く栗原明子さん。栗原さんは原爆投下後の広島大学でオマールさんらと野宿をされた方です。

増田さんは青木さんと栗原さんとは初対面でしたが和やかに話が進み、お話しをしながら栗原さんのスケッチをすらすらと描いておられました。完成したスケッチには少女のような可憐な笑

顔が描かれ、『うわあ』と可愛らしい声で喜ぶ栗原さんの笑顔がとても印象的でした。

その後は増田さんが描くもう一人のモデル、被爆南方特別留学生のニック・ユソフさんの足跡を辿るため、ユソフさんが眠る光禅寺（五日市）を増田さん、早川先生と訪ね、星月空・前住職からユソフさんのお墓建立のエピソードをうかがいました。そのエピソードは２月のギャラリートークでお話しいたしますので、ぜひ会場の「gallery G」にお出かけいただければと思います。栗原さんから今日うかがったオマールさんとの思い出もお話し致します。

ほんの数時間でしたが、心の通い合いを感じるひとときとなり、人の温もりに包まれたような気持ちにもなりました。この温もりをギャラリートークでお届けできればと思います。

やはり人との繋がりはいいですね。ご一緒させて頂いた皆さまと今日の日に感謝です。

本・DVD・映画・番組・その他の紹介と交流

■わたしは広島の上空から地獄を見た　―　エノラ・ゲイの搭乗員が語る半世紀

著：ジョージ・R・キャロン＆シャルロット・E・ミアーズ／訳：金谷俊則

紹介　石角敏明（長岡京市）

文芸社　1,800 円＋税

副題からもわかるとおり「エノラ・ゲイ」搭乗員（爆撃機上からキノコ雲を撮影した）の半生記だが、本書は核開発計画が始まり原子爆弾が完成するまでの過程、そして原爆投下にいたるアメリカ・イギリス・ソ連（当時の）の首脳の動き、そして「超空の要塞」といわれたB-２９が開発され完成するまでの経緯も書かれている。しかし、この本の主人公は、B-29 の尾部で射撃手を務めた「キャロン軍曹」であるため、原爆投下後の広島がどのようになっていたのか具体的に触れられていることを期待した読者には不満を感じる方もおいでになると思う。しかし、原爆投下に至る当日の搭乗員の動き、そして機中から見た原爆投下後の激しい大気の衝撃は当事者でなければわからないことが詳細に書かれている。

そして、トルーマン大統領をはじめ、エノラ・ゲイの搭乗員すら

「原爆投下」を何ら反省しないどころか「当然」のように振る舞う姿勢に怒りすら覚えるのは私だけではないと思う。でも、その光景はすざましいものであったことは、十分読み取れる。著者は「原爆投下が正しかったかどうか」については一切言及せず、ただ事実を淡々と述べているだけだが、開発・誕生から人間の理性・力ではどうすることも出来ないほど巨大化していく姿を描く姿勢は著者の想いを描き出しているのではないだろうか。

著者の想いは、原著の末尾に書かれているキャロンの次の言葉で表されていると思う。

「わたしはエノラ・ゲイの尾部から見たあの朝の光景を、ほかの誰にも決して見せたくないと願っているのです」（訳者は広島の被爆２世です）

■京都労演１２月例会のご案内

紹介　小林こうき（宇治市）

２０２３年１２月例会　文学座公演
『星をかすめる風』
作／イ・ジョンミョン
脚本・演出／シライケイタ
出演／矢野貴大、北直樹、葛西和雄、他
公演日時／１２月１７日．１８日
会場／呉竹文化センター
（近鉄・京阪丹波橋駅西隣）

◇今回の作品は、日本が植民地支配をしていた韓国で１９１７年に生まれ１９４２年に日本に留学し立教大学・同志社大学で学んでいた１９４３年に朝鮮の独立運動容疑・治安維持法違反で逮捕され福岡刑務所で１９４５年２月１６日に２７歳の若さで獄中死した詩人尹東柱(ユン・ドンジュ)。

ものがたりは、収監された６４５番平沼東柱(尹東柱)、嫌っていたが、やがて尹東柱の詩に惹かれていく若い看守・杉山。杉山が何者かに殺され、犯人探しが・・・ミステリードラマ。

尹東柱の福岡刑務所に収監されていた時期の記録は全く残っていない、作品はあくまでもフィクションであるが。「否応なしに歴史の真実と尹東柱の詩と生涯に真正面から向き合うことに。武器ではなく文化こそが真の自由への道であり、平和への大きな一歩なのだという力強いメッセージを共感できることを願う。」（楊原泰子／詩人尹東柱を記念する立教の会）

ぜひ、この機会に京都労演ご入会下さい。ご一緒に芝居を楽しみましょう。

京都労演は、会員の運営参加や俳優さんを迎えた交流会の開催など、観劇チケットを買って見に行くお芝居と、京都労演の例会は大きな違いで楽しみでも。年６～７作品（例会）を入会金１，０００円と毎月の会費３，５００円で生の舞台が楽しめます。

入会や会費、今年の作品など、詳しくは
こちらから京都労演のホームページで。

Scrap book

■ＣＴＢＴ　ロシアが批准国撤回

プーチン大統領の指示でロシア議会は１０月、包括的核実験禁止条約（ＣＴＢＴ）の批准撤回を可決した。署名したが未批准である米国と「同じ立場」に立つのだという。

ＣＴＢＴは、原子炉を持つ４４ヶ国がすべて批准して初めて発効する定めだ。うち核兵器国である米国と中国は署名したが未批准。これらを含む８ヵ国が未批准のため、９６年にできた条約は未発効のままだ。

ロシアは、核実験を再開する意思はなくＣＴＢＴ機関への協力も継続するとしている。だが、国際法をもてあそぶ無責任な行為だ。

ＣＴＢＴは、あらゆる核爆発実験を禁止している。核兵器禁止条約は、核爆発を伴うもの以外もすべての核実験を禁止している。これらの条約に未だ署名・批准していない国は速やかにそれらを行い、いかなる核実験もさせない国際ルールを確立すべきだ。　**川崎哲（ピースボート）**

（２０２３年１１月６日　被団協しんぶん）

■またも飛び出した「核の脅威」・・・地獄を招く被爆の実態を「知らなさ過ぎる」と憤る広島・長崎の原爆被爆者たち

イスラエルの閣僚が、パレスチナ自治区ガザに核爆弾を落とすのも選択肢だと発言した。国内外の非難で処分されたが、ウクライナに侵攻したロシアに続き、戦争当事国から発せられた核による威嚇。あまりに軽い言葉に憤っているのが、広島・長崎の原爆被爆者だ。戦後 78 年訴えてきた被爆の実相、核兵器の非人道性はどう受け止められているのか。

◆「それも選択肢の一つだ」

共同通信によると、問題の発言があったのは 5 日の極右系ラジオ。エルサレム問題・遺産相のアミハイ・エリヤフ氏がインタビューで「ガザに核爆弾を落とすべきか」と尋ねられ、「それも選択肢の一つだ」と答えた。

エリヤフ氏は、対パレスチナ強硬派の極右政党「ユダヤの力」党員。ネタニヤフ首相は「現実とかけ離れている」と否定する声明を発表したが、周辺のアラブ・イスラム諸国から非難の声が相次いだ。

イスラエル軍の空爆を受けたガザ市街地＝10 月 7 日、AP

◆忘れられない地獄

被爆者はどう感じたか。

「核兵器の怖さを知らないからそんなことが言える。使うぞ使うぞと威嚇し、誰の何のための戦いか」と憤るのは、日本原水爆被害者団体協議会事務局次長の児玉三智子さん（85）＝千葉県市川市＝だ。

国民学校に通っていた 7 歳の時、広島の爆心地から 3.5 キロで被爆。木造建て校舎の 1 階にいて強烈な光に襲われ、爆風でガラスが吹き飛んだ。心配になって迎えに来た父と自宅に帰る際、「忘れられない地獄を見た」。

目の玉が飛び出た人、真っ黒な塊になった子どもを抱きかかえる人、そして、自身と同じぐらいの年代の女の子が児玉さんを見たすがるような目。「新聞やテレビに映る戦火の子どもたちの目が、あ

の時の女の子と重なって身体が凍る。どうして罪もない人たちがこんな目に・・・」。７８年前に感じた思いが再び交錯する。

父や母、２人の弟をがんで亡くした。婚約者の親戚に「被爆者の血を入れることはできない」と差別され、破談になったこともある。２０１１年にがんで亡くした娘＝当時（４５）＝から、「なぜ私ががんに！」と言われたことは生涯忘れられない。

「ひとたび放射能を浴びれば、死ぬまで被爆者。心の痛み、差別も全て連鎖して引き継がれる。だからイスラエルの閣僚の発言は、許してはならない」と言葉は止まらない。

◆「全てを消滅させるものなのに・・・」

その思いは長崎で被爆した長崎県平和運動センター被爆者連絡協議会の川野浩一議長（83）も同じだ。「原爆は普通の爆弾と違い、将来にわたり全てを奪う非人道的なものの極致。とんでもない話だ」と、憤りを超えた悲しみに沈む。

５歳の時、爆心地から約３キロで被爆。「ピカッとした光もドンという音も記憶がなく気付いたら１０メートル吹き飛ばされ、地面にたたきつけられていた」。意識を取り戻し防空壕に逃げると、祖母に「外は幽霊の行列だ」と聞かされた。「手を前に出し、皮膚の皮がむけた人間がぞろぞろさまよっていた」と。

子どものころから身体が弱く、やせていた。３０歳ごろまで、なぜかよく鼻血が出た。１５年ごろ、食道がんと宣告され、原爆症に認定された。核兵器のむごさを身をもって感じてきただけに、今回の発言は理解できない。

「被爆の実態を知らな過ぎる。威力がやや強い大きめの爆弾ぐらいにしか考えていない。全てを消滅させるものなのに…」

◆イスラエルでも核廃絶を訴えてきた

被爆者は「ノー・モア・ヒバクシャ」を掲げ、世界中で体験を語ってきた。イスラエルにも２０１２年９月、非政府組織（ＮＧＯ）の「ピースボート」が被爆者４人を派遣している。

その１人で、広島での被爆体験をテルアビブなど３カ所で話した杉野信子さん（７９）＝東京都世田谷区＝が振り返る。「母とともに倒壊した家の下敷きになり近所の人に助け出されたことや、小学２年生だった姉がやけどで亡くなり、中学１年だった兄が行方不明になったことを話すと、親子連れが涙ぐんで聞いていました」

イスラエル軍に空爆されたガザ地区南部の避難民キャンプ＝AP

印象に残っているのが、核兵器について問われたときのことだ。１２年８月に広島市の平和記念公園での慰霊祭にイスラエルを含む各国要人が列席したことを紹介。「参加した人たちが自国で核兵器の惨状を伝えてくれたら、核兵器がなくなる日が来るかもしれないと話すと、会場からわーっと拍手がありました」

イスラエルにも核廃絶を願う人たちはいる。そう思っていただけに、今回の閣僚発言には怒りが込み上げる。「軽く脅すように核兵器を使うと言う人が国の中心にいるなんて。使えば自分の国も地球も駄目になるのに。何も知らな過ぎる」

◆事実上の核保有国

公式には認めていないが、イスラエルが核兵器を保有しているのは「公然の事実」だ。ＮＰＯ法人「ピースデポ」特別顧問の梅林宏道氏は「イスラエルは一貫して核兵器の保有を否定も肯定もしない曖昧な態度を取ってきた。しかし、核施設で働いた技術者の告発などもあり、事実上の核保有国と国

際社会はみている」と指摘する。保有理由は「アラブ諸国への対抗策として、もし攻められれば核を使うぞという抑止力のため」で、「遅くとも１９６０年代から保有してきたと考えられている」と話す。

ストックホルム国際平和研究所によると、２２年１月時点の推計で、イスラエルは９０発の核弾頭を保有しているとされる。米国の 5,428 発、ロシアの 5,977 発に比べれば少ないが、北朝鮮の２０発を上回る数だ。

核拡散防止条約（ＮＰＴ）で核保有が認められているのは、米ロ英仏中の５カ国だが、イスラエルやインド、パキスタンはＮＰＴに入らずに核兵器を開発し、北朝鮮はＮＰＴ脱退を宣言して核実験を続けている。

国際社会も、イスラエルのＮＰＴ加盟を求めるとともに、中東一帯の非核化を目指す国際会議を１９年に初めて国連本部で開いた。ただ、その後の会議を含めてイスラエルと米国はすべて欠席。梅林氏は「国際社会は中東の非核化に向けた努力はしているが、米国がイスラエルの核保有を黙認、擁護する中で実のある議論はできていない」と米国の対応を問題視する。

◆「ガザに落としたらイスラエル全土に被害が及ぶ」

核容認の根本に、原爆の実相、恐ろしさへの理解不足があるのではないか。ピースボート共同代表で、１２年の被爆者イスラエル派遣にも同行した核兵器廃絶国際キャンペーン（ＩＣＡＮ）国際運営委員の川崎哲氏は「もしガザに原爆を落としたらイスラエル全土に被害が及ぶ。そんな現実も知らない主張を閣僚がしたのは危険」と指摘する。

「甚大な被害を生む原爆投下が許されないのは、良心あるイスラエルの人々は分かるはずだ。良識ある人たちと連携して、停戦と人質解放にかけていく」と草の根の平和活動の重要性を説きつつ、日本政府にも注文を付ける。「今こそ核兵器が許されない国際的な規範を確立しなければならない。核兵器による威嚇も使用も禁じる核兵器禁止条約に日本も正面から向き合う時期に来ている。まずは今月下旬の締約国会議にオブザーバー参加すべきだ」

◆デスクメモ

２０年ほど前、原爆症と国に認定されなかった被爆者が集団訴訟を起こした。被爆後数十年でがんなどの病気になった人らで、その多くが勝訴。厚生労働省の狭すぎる認定基準とともに、生涯続く核兵器の残虐性が司法で認められた。亡くなった原告も多いが、語り継いでいきたい。

（２０２３年１１月８日　東京新聞）

編集後記

▼今から２０年前、２００３年、イラクの大量破壊兵器（核兵器）武装解除を理由に、国連の安全保障理事会での決議のないまま、アメリカがイギリス、オーストラリアも巻き込んで、イラク戦争を始めました。世界中の人々が“大義のない”アメリカの武力行使反対に声を上げ、世界の諸都市で数十万規模の抗議集会やデモが連日行われました。アメリカの引き起こす戦争を止めさせることはできなかったけど、この時、世界中の人々が共同の意志を持って起ち上がり、連帯して行動したことに、この上ない力強さと希望を感じたものです。今、パレスチナ・ガザの事態に遭って、２０年前のことを鮮明に思い出します。▼１０月２７日、国連総会緊急特別会合で「ガザの人道的休戦を求める」決議が１２１ヵ国の賛成で採択されました。国連加盟国の６３％です。決議案に反対したのはアメリカ、イスラエルなど１４ヵ国、日本やＮＡＴＯ諸国など４４ヵ国は棄権しました。世界の本当の平和と安全と進歩のために尽くしているのはどこの国々の政府なのか、その姿が明らかになっているように思います。（平）

２０２３年１２月（師走・しわす）行事カレンダー

月	日	曜	行　　事
１２	１	金	核兵器禁止条約第２回締約国会議閉幕 キンカン行動
	２	土	*世界初の人工的核分裂連鎖反応に成功した日(1942 年・シカゴ大学)*
	３	日	とめよう！原発依存社会への暴走１万人集会（１３時・大阪市うつぼ公園）
	４	月	国連人権週間　→　１２月１０日まで
	５	火	
	６	水	６・９行動
	７	木	
	８	金	*太平洋戦争開戦(1941 年)* キンカン行動
	９	土	２０２３年不戦のつどい（１４時・かもがわ） ６・９行動
	１０	日	
	１１	月	
	１２	火	原発賠償京都訴訟控訴審第２０回期日（１４時・大坂高裁）
	１３	水	*南京大虐殺(1937 年)* 臨時国会会期末
	１４	木	
	１５	金	京都「被爆二世・三世の会」１２月例会・忘年会（１９時・Ｋハリーナ） キンカン行動
	１６	土	
	１７	日	
	１８	月	
	１９	火	安保法制廃止をめざす１９日行動（１８時３０分・市役所前）
	２０	水	
	２１	木	*韓国総督府設置(1905 年)*
	２２	金	冬至　キンカン行動
	２３	土	２０２３年被爆者をはげますつどい（１３時３０分・ラボール京都）
	２４	日	
	２５	月	Xmas
	２６	火	
	２７	水	
	２８	木	
	２９	金	キンカン行動
	３０	土	
	３１	日	大晦日